試験	系統・性別・匹数	投与方法・投与量(mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日)又はベンチマークドーズの信頼下限値(mg/kg 体重/日)		
			JMPR (1997)	EFSA (2019)	EPA (1999、2010)
発達神経毒性試験 [2002年、GLP] 【EFSA⑨、10、A-15、16頁、参照14:168頁、参照17:192～196頁】	Wistar ラット 雌 30匹	混餌投与 0、2.5、10、50 ppm (妊娠 0日～ 哺育 21日) ----- 妊娠期: 0、0.2、0.9、4.8 哺育期: 0、0.5、2.1、10.3	/	母動物: 0.5 児動物: 2.1 母動物: 赤血球 AChE 活性阻害 児動物: 雌雄: 赤血球 AChE 活性阻 害(生後 21日)	/
2世代繁殖試験 [1989年、GLP] 【JMPR②0～23頁、EFSA⑨9頁、A-15頁、EPA①24頁、参照14:127頁】	SDラット 雌雄各 30匹	混餌投与 0、2.5、10、40 ppm ----- 雄: 0、0.17、0.64、2.8 雌: 0、0.20、0.73、3.2	親動物: 0.17 体重増加抑制 児動物: 0.64 体重減少	親動物: 0.17 赤血球 AChE 活性阻害、体重 増加抑制 児動物: 0.64 体重減少、赤血 球 AChE 活性 阻害 繁殖能: 2.8	親動物 P雄: 0.17 P雌: <0.20 血漿及び赤血 球 ChE 活性阻 害 児動物: 3.2 毒性所見なし
3世代繁殖試験 [不明、非 GLP] 【JMPR②20頁、EPA①25頁、参照15:127頁】	FB30 ラット 雄 10匹、 雌 20匹	混餌投与 0、3、10、30 ppm ----- 0、0.15、0.5、1.5	毒性所見なし (繁殖能に対す る影響は認め られない)	/	親動物 F _{2b} 雄: 0.5 体重増加抑制 胎児: 1.5 毒性所見なし
発生毒性試験① [不明、非 GLP] 【JMPR②23、24頁、参照14:136頁】	FB30 ラット 雌 25匹	強制経口投与 0、0.3、1、3 (妊娠 6～15 日)	母動物: 1 胎児: 3 母動物: 死亡率 増加、振戦、体 重増加抑制 胎児: 毒性所見 なし (催奇形性は認 められない)	/	/